



〜土地造り・家造り〜

竹原康夫

沖縄問題は民族の人間性にも根差す問題だけに深刻である。この度の参院選挙は皮肉にもプライス勧告が革新陣営を利する結果となつた。

昨年秋、ある会の催で古い河内の民家を四五訪ねる機会に恵れた。古来「河内の家造り」と称せられる通り此の地方は住家には昔から特に心を用いたようで今尚民族伝承の見事な手法が残っている。民家として唯一の国宝吉村邸の如く簡素雄勁なもの又素朴高雅なもの等何れも長者の風格を存し愛着を覚えるものであつた。その中S邸は4百年余り前、恐らくは室町末期より造築せられ何代かに亘つて心を籠めて加築整へられたものとも伝へられ、主家は平家建250坪余り、結構の大にも拘らず間取設計等は使用人、家人、迎賓用等ばかりでなく当時の生活の用に応じて工夫せられ、細微に迄心が行届いていることは門外漢の私にも感得せられ、太い木組など年代を経て磨上られ代々の愛着を吸込んでその底光りの美しさは自ら感懐を覚えしめる。

当主S氏によれば終戦前は50町歩余りの所有農地により維持されたが、農地改革により忽ち家の固定資産税にも困窮するに至り所在市に寄贈を申出でたけれど維持に困ると拒否され処置に困つてゐるとのこと、何人であれ改変を加へず愛情を以て維持して頂きさへすれば無償で譲り度いとの希望を述べられた、祖先伝承の愛着の深さに一同胸を打たれたが、さてとなると引受る程の力もなく皆顔を見合すばかりであつた。

S氏は40才余り、東大経済を出て戦地より復員後は自活のため住古に塾を開き自らは語学を夫人は洋裁を教へている人懐つこい柔和人柄である。帰途、伝承の物の維持は如何に困難であるかを話合つた。この家にして幾百年の転変に栄え過ぎれば今様に改造され或は更に人を求めて姿態を損ひ窮乏すれば取毀たれて形を失つていたであらうと。その感懐にふけり乍らS氏の淋し氣な微笑は何時迄も心に残つた。

本年早春2月新聞の社会欄にピストル自殺の記事が載つた。70余万円の固定資産税滞納を苦に病んで額を打抜いたと云ふのである。それが3カ月程前淋しい微笑を洩らしたS氏であつた。市井の一人の話でしかないがこれは伝承の美しさを失ふものゝ悲劇である。近頃の一部の若い人にとってはこれは新時代を踏外したものゝ単なる喜劇でしかないが何としても私にはその事自体が悲劇である。

其の後私は久し振りに郷里に募参し古ぼけた郷家で兄と酒を酌んだ。私の田舎も新市ブームによつて小市に編入され近くに公営住宅が建つことになつた。兄の愚痴は農地改革で手離した5百円の瘠地がその宅地として25万円に買上られ旧地主には1銭にもならないといふのである。私は

「いゝではないか元々出来の悪い土地から供出した田知なのだから」と笑ひ兄も苦笑した。兄には悪いが全く喜劇と云ふべきである。

去る日、中ノ島で開かれた沖縄問題解決促進のための国民大会に行つた。沖縄に関係もなく、政治的意図もない私として物好きのそしりがあるかも知れないが唯少年時代を上の上に育つた私として何となく見逃がせなかつたのである。沖縄は昔から日本の土地であり日本人が生きて来た。4時間余り雨の中を立ちつくした会衆の願いは例へ瘠地であらうと祖先の造つた乏しい土地を永久には取られ度くない。二足三文でゴルフ場等にされ度くないと云ふのである。早い者勝ちに転々と良い土地をあさつた開拓者の子孫には此の最も素朴な人間的願望は理解して貰へないものか。色々の人間関係は悲劇的であるよりも喜劇的であつた方がよい。(筆者は協会理事、阪口興産KK社長)